

技術で豊かなまちづくり

平成16年1月1日

高知土木技士

No.34

(社)高知県土木施工管理技士会 [高知市本町4-2-15 建設会館5F TEL825-1844]



平成15年度表彰 国土交通省 四国地方整備局 優良建設工事

施 工

ミタニ建設工業 株式会社

工 事 名

平成13年度 野老山高架橋下部工事

場 所

高岡郡越知町野老山

現場代理人

光 内 博 文

土木施工管理技士会倫理綱領

会員は、国家資格者として誇りと品格を持ち、
常に自己の資質と技術の向上に努め、
社会に貢献すること。

(誇りを持つ)

1. 土木技術の国家資格者として誇りを持って行動し、日頃から技術の研鑽^{けんざん}に励むこと。

(技術力を活かそう)

2. 技術者として自己の専門的知識及び経験をもって良質な物を作ること。

(公正な行動をしよう)

3. 携わる事業の性質から、公正・清廉^{たつと}を尚び、広く模範となる行動をすること。

(ボランティアに参加する等、社会に貢献しよう)

4. 技術者として知識・経験を活かし、災害時等はもちろん、ふだんの生活においても、地域活動や社会奉仕に積極的に参加するよう努めること。



新年のご挨拶



社団法人 高知県土木施工管理技士会

会長 宮田 益吉

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様には、お健やかに新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

建設業を取り巻く環境は年々厳しくなっています。しかし、有史以来、建設技術者の必要性がなくなったことはなく、その時代、その地域の要請による公共事業自体もなくなるわけでないし、技術者は絶対に必要です。受注量の減少という、こういう時期だからこそ技術を生かす工夫ができるのではないのでしょうか。例えば、VEにおける工夫です。今までの方法に固執せず、新しい工法を創意工夫し、技術の開拓に力を注ぐことがこれから必要になってくると思います。

また、建設業法においては、技術者を営業所や現場に配置することが求められています。この事業現場での施工段階においても、技術的な創意工夫を重ね、建設コストの縮減や、品質、安全性の向上を図ることが重要となっております。

そのためには、現場での施工管理を担当される技術者は適正な施工体制の確保を併せて、常日頃から新技術・新システム等に関する情報収集と、その現場への積極的な導入に取り組んでいくことが肝要です。

また災害時の対応や、地域社会への貢献等を通じて建設事業に対する地域の信頼を高めていくことも大切です。

技士会活動は、次の二点に尽きると思います。一つは、資格を取った後、絶えざる学習で技術力を向上させること。二つ目は、技士の社会的地位の向上を図ること。この活動を基に、昨年で全国の都道府県全てに技士会が存在（設立）しております。

そこで、「継続学習制度である土木施工管理／CPDS」の実績を以って、会員の努力を目に見える形にし、第三者特に発注者に向けて情報発信し、その努力が具体性をもって理解され、将来のメリット実現に繋ぐため、この学習経歴データへ工事経歴データ（CORINS）や、資格・学歴データとマッチ活動すれば、優秀な技術者の選定に一層有効に利用価値の高いものとなります。ここに、平成12年度には鳥取県技士会、昨年の15年度に広島県技士会でのCPDS活動が、県当局に評価・活用され、建設工事入札参加資格者格付要綱の中で、経営事項審査の主観事項（技術力評価）に加えられておられます。

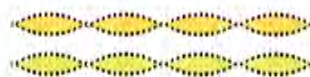
全国土木技士会連合会では、国土交通省に対し評価・活用の要望を続けており、当技士会におきましても、高知県当局にCPDS活動実績をアピール、技術力評価を要望しているところでもあります。

会員の皆様方には、その社会的使命の重要性を踏まえ、今後とも技術力の研鑽と自己改革に励み、一層の向上に精進されるとともに、建設産業の発展にご尽力されることを願っております。

終わりに、本年も技士会の運営につきまして、会員並びに関係の皆様のご支援ご協力をお願い申し上げ、年頭の挨拶といたします。



新年のご挨拶



高知県土木部長 見波 潔

謹んで新年のお慶びを申し上げます。土木施工管理技士会の皆様におかれましては、それぞれの感慨を持って新しい年を迎えられたことと存じます。

平素から県行政、とりわけ土木関係事業の推進につきましては、格段のご支援、ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

新しい年は、地方の行財政構造に大きな影響を与える三位一体の改革の具体的な内容や市町村合併の姿が明らかになるなど、社会経済システムが大きく変革する重要な年になると思われます。

公共事業におきましても、高速道路の今後の整備手法や国庫補助事業の廃止・縮減、国と地方の役割分担の明確化など活発な議論が展開されていますが、先行きの不透明感は拭えず、依然として厳しい時代が続くと予想されます。

本県にとって、これからの地方分権時代に的確に対応するためには、高速道路に代表される交通施設や防災施設といった、県民の暮らしと経済の発展を支える社会基盤の整備がまだまだ必要であると考えています。

今年土木部では、非常に厳しい財政状況の中で、県民の生活を支え、安全を守り、環境を保全し、活力を増進するため、①事業のプライオリティを明確にし、効果的で透明性の高い事業を行う。②効果的な事業を行うために地域の実情にあった事業を進める。③既存施設の有効活用と延命化のための計画的な維持管理を行う。といった基本的な方針で県民と向き合った土木行政を推進してまいります。

昨年は、ふるさと林業床鍋倉川トンネルの粗雑工事をめぐります、たいへん残念な問題がありました。

県では、全庁的に監督・検査体制を見直し強化するとともに、「結果の管理」から「経過の管理」に重点を置いた体制の確立に取り組んでまいります。

「公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律」では、適正な施工体制の確保が義務づけられ、特に公共事業の品質確保の観点から、元請け、下請けを含めた、より一層の施工体制の強化や現場技術者の配置等の徹底が求められています。

我々土木技術者には、県民に使いやすく愛される、そして効率的、効果的な社会資本の整備が求められており、技術者がお互いに知恵と汗を出し合い一体となった継続的な取り組みにより、組織として、個人として資質の向上を図っていくことが極めて重要であると考えます。

貴会では、常日頃から技術力アップに積極的、先導的に取り組んでおられ、その成果を大いに期待しているところです。

今後は、県職員の土木施工管理技士においても、貴会と連携し土木関係事業の推進に努めてまいりたいと考えています。

よりよい県土づくりのため、高知県土木施工管理技士会のますますのご発展と会員各位にとりまして実り多い年となることを祈念いたしまして、年頭の挨拶とさせていただきます。

技術コーナー

高知東部自動車道の整備状況について

国土交通省土佐国道事務所

副所長 中山 義 男

1. はじめに

当事務所は国道32、33、55、56号の4路線294.7km区間の管理とともに、別表に示す改築事業を担当している（平成15年度当初時点）。

事業種別	路線名	事業名	延長(km)	備 考
高規格幹線道路	55	高知南国道路	15.0	高知東部自動車道の一環
	55	南国安芸道路	12.5	〃
	56	須崎道路	5.1	
	56	中土佐インター関連	0.2	中土佐インターの国道接続部
地域高規格道路	33	高知西バイパス	9.8	高知松山自動車道の一環
	33	越知道路	4.0	〃
防災対策	32	板木野防災	2.7	
	33	橋防 災	2.0	
沿道環境改善	33	旭 町	0.4	正規の4車線への拡幅

2. 高知東部自動車道

高知東部自動車道は、高知市から安芸市に至る延長約36kmの路線であり、一般国道自動車専用道路として整備を進める路線として位置づけられている。

このうち、高知ICから高知空港IC間（延長約15km）を「国道55号高知南国道路」として、また、高知空港ICから芸西西IC間（延長約12.5km）を「国道55号南国安芸道路」として事業を進めている。

3. 国道55号高知南国道路

この道路は、高知自動車道と高知新港、高知空港の交通拠点を連結し、物流の効率化や活発な地域の運営を支える役割を持つ。

高知ICから高知南IC間については、高架構造の高知南国道路の両側に県道（五台山道路）が併走する形態となっている。当区間の高知南国道路については、用地買収は概成しているが、県道については、平成14年度までに当区間の供用が図られていることから、当面はこの県道を活用することとしている。

高知南ICから高知空港IC間については、平成23年度の供用を目指して、地域の各方々の協力をいただきながら、測量設計、用地買収、工事を並行して進めている。

4. 国道55号南国安芸道路

高知南国道路と一体となって、高知県東部地域へのアクセス性を高めるとともに、豪雨・地震などの災害に対して信頼性の高いネットワークを構成するものである。

当道路の事業展開は、芸西村側から南国市に向かって順次整備を進める方針としている。

現国道55号の夜須町手結山地区は地質が悪く、過去に何度か災害発生による通行規制が生じている。当該区間は迂回路がないことから、災害発生時には高知県東部地域における交通途絶や地域の孤立と言ったリスクを有しており、この課題を早期に解消するために、手結山トンネル（延長2,346m）を含む夜須ICから芸西西IC間を先行整備することで事業を進めている。

また、香我美町、夜須町の現国道は2車線しかなく、交通渋滞が生じていることから、その対策として野市ICから夜須IC間を早期に整備することで、当該区間についても、測量設計、用地買収を順次進めている。

5. おわりに

道路事業を進めるなかで、事業のスピードアップが重要視されており、計画的、効率的な事業展開に努める必要があるが、四国地方整備局においては、地域の方々の協働で道路事業を進めていくために、個所毎の事業進行状況を公表する取り組みを本年9月からスタートした。（<http://www.skr.mlit.go.jp/road/sinko/index.html>）

この中で、整備目標年度や事業の進捗状況も明示・更新しており、高知東部自動車道についても、この目標に向かって事業を進め、高知県東部地域へのアクセス性の向上に寄与したいと考えている。

また、本年9月には、阿南安芸自動車道の大山道路が地域高規格道路の整備区間として指定され、当事業についても来年度から事業を推進していくこととしている。

高知県においては、南海地震の発生が懸念されており、国道55号は海岸沿いに通過していることから、津波対策としても高知東部自動車道、大山道路の早期整備が強く求められており、一日でも早い供用を目指して事業推進に努めていきたい。

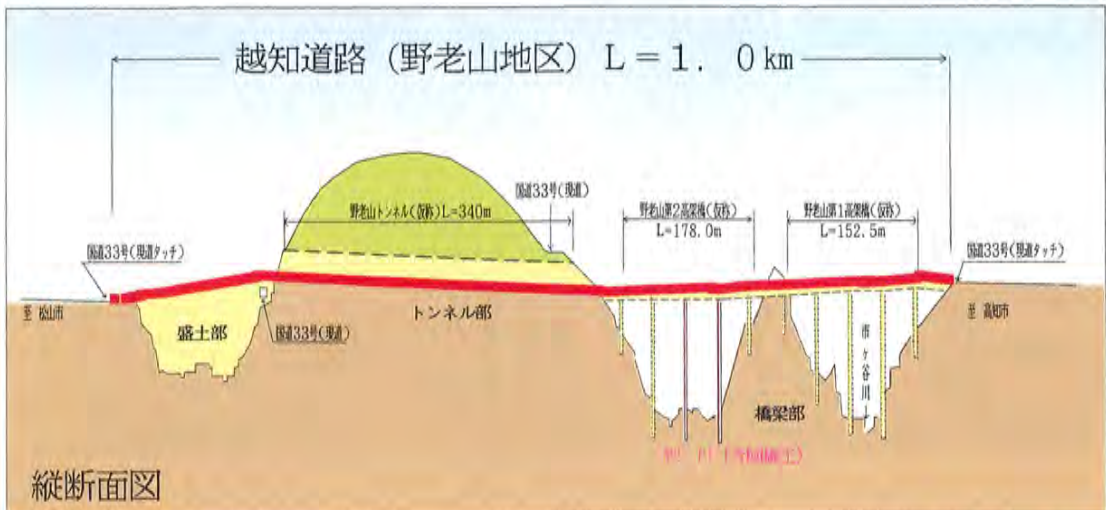


会員の広場コーナー

平成13年度 野老山高架橋下部工事

ミタニ建設工業株式会社 土木部 光内博文

本工事は、地域高規格として指定されている高知松山自動車道の一部として計画されている越知道路の一環で施工された野老山高架橋下部工の工事である。越知道路（全長1.0km）の計画路線は、一般国道33号の中でも特に線形が悪く地すべり地帯であり、大雨による事前通行規制区間であることから、早期解決を図るために計画された道路である。



工事の概要は、まず工食用進入路の設置として国道33号より民地を借地し、工食用仮栈橋 $W=6.0\text{m}$ 、 $L=159\text{m}$ （縦断勾配15%）を施工し、本体工事であるP1、P2橋脚（張出し式橋脚 $H=25\text{m}$ ）及びその基礎となる深礎杭基礎工事（ $\phi 7.0\text{m}$ $L=13\text{m}$ $L=15\text{m}$ ）を主体とする高架橋下部工事であります。

また、自然の多い場所での建設工事ということもあり環境対策にも留意して貴重植物等の調査を実施し、発注者及び高知県環境保全課と協議しその指導のもと貴重植物の移植や保護を第一に実施しました。

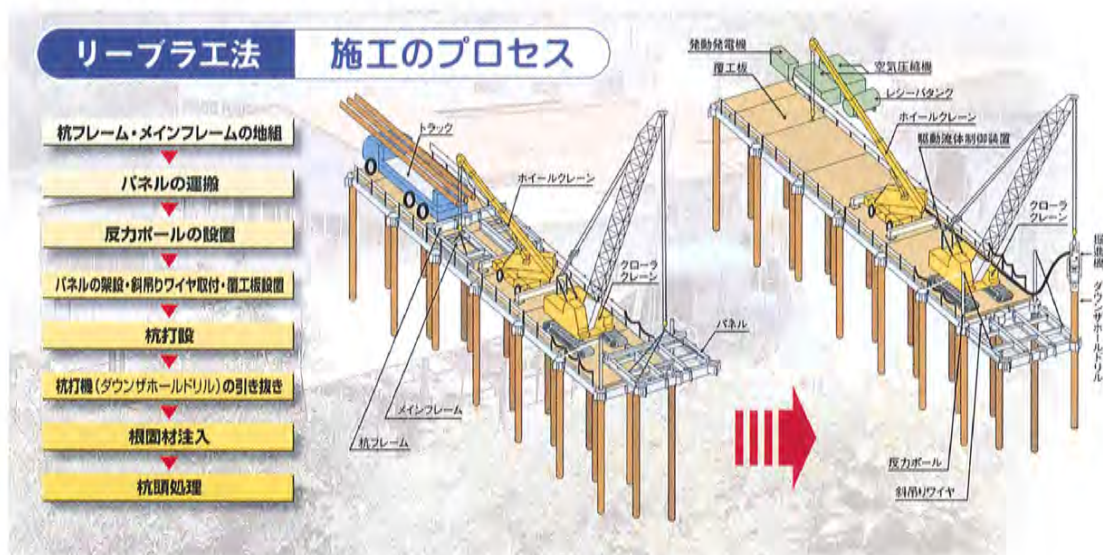
更にその貴重植物保護の観点より、仮栈橋工法をH鋼等による従来工法よりLIBRA（天秤）工法へと協議変更し施工しました。本工法は高知県内では、初の採用であります。

ここで少しこのLIBRA（天秤）工法について説明します。

新設上部構造パネルを杭橋脚を打設するまでの間支持し、新設杭を打設する工法であります。（NETIS登録No.KT-990222）

リーブラ（LIBRA）工法の特徴は、次のことが言えます。

- ① 上部工に於いて足場作業と架設にかかる高所作業が不要となり、工期が短縮され安全性が向上しました。
- ② 上部工と下部工の併行作業が可能となり、手持ちが低減して施工性が向上しました。
- ③ 新設パネルの杭橋脚連結部が鋼管打設の導材となるため傾斜面等における基面整形、導材設置作業が低減し、安全性が向上すると共に自然環境に対する影響を抑えることが可能になりました。
- ④ 削孔と建込みが同時に進行し、軟弱地盤、崩壊性地盤から転石などの硬質地盤まで安定した施工が可能であります。



上記に述べたとおり当現場においても、まず無事故にて完成でき貴重植物の保護やその周辺の環境を乱すことを最小限に抑制でき、工期の短縮にも十分に役立ったと思います。

そして本体工事においても、良い品質の物を造るをISOの品質目標にも掲げ、打設方法、養生方法等について社内協議を行い、橋脚工躯体工のクラックの発生防止にも努めた結果、クラック皆無にて良い出来栄えのコンクリート構造物が出来たことが、今回の受賞につながったと思っています。また、色々御指導等を頂いた発注当局にも感謝いたしております。この場をおかりして御礼させていただきます。

最後になりますが、これからも幾つかの現場を経験できると思いますが、色々な意味で広い視野を持ち現場にマッチし、安全性や経済性を追求してムダのない工事現場を目指していきたいと考えています。

委員会コーナー

これから、心すべきこと

制度委員 岩城 立郎 (有限会社 岩城組 代表取締役)

世の中、テレビ、パソコン、各種刊行物等、様々なチャンネルを通じて情報があふれ返っています。これは、ほんの3、40年前には思いも及ばなかったことです。

最近、この環境変化を個人レベルでほんとうに咀嚼しているか疑問に思っています。皆さんはどう感じているのでしょうか。世の中は多様化しているとよく言われていますが、多様化しているのはむしろ個人ではなく、まわりを取り囲む環境の変化ではないでしょうか。じつに生きていくのに難しい世の中になったものです。昔のほうが良かったというのではないのですが、すくなくとも昔は、松花堂弁当のように世の中にある程度シキリがあり、それぞれその立場によって風俗まで異なり、見た目も美しく次はなにを食べようかといった楽しみもありました。

今は煮込みすぎたシチューのようにドロドロで具材の形もわからなくなっています。いわく、ボーダレスというそうです。どうも鍋ごと目の前にだされても食欲がわきません。

少し文句を言わせていただければ、皆さん少し抽象的な言葉を使いすぎてはいませんか。たとえば政治家や行政に携わる方々、国民とか市民、県民とかいう言葉を多用しますが、これは抽象概念であって施策のための具体的な対象を示す言葉ではないはずですが、これを国民、市民、県民といった抽象概念の鍋に十把一絡げに放り込み同じ味付けにしてしまえば文句の一つも出てくるはずですが、これを悪平等といいます。それぞれの対象に異なった施策を施すのは当たり前のことです。

よく会議でこの類の言葉を使い着地点を見失い、どこかで嘘をいって会議という儀式だけをまとめ、帳がきえたといってお得々としているのを皆さんもよく見かけているはずですが。

戦後の民主主義、多数決もよろしいのですが、これは同じ鍋に放り込まれ同じ味付けをせられることが大前提だと覚悟する必要があります。

技士会の皆さん、せめて我々の世界だけでも低いシキリを作ってみませんか。技士といっても森林土木が得意なひと、海岸の工事が得意なひとと様々です。登録制でも採用して、人間の交流を活発にして未知の世界を体験し見識と技術力を高めることで、すこしは若い技士さんの意欲を高め、未来に希望をもたせることが可能ではないでしょうか。特に重箱の隅をつつくような今の管理制度にあえぐ中小零細な業者の要望にもこたえ得る技士会であってほしいと思います。

最後に抽象概念、イデオロギーも同じですが、その弊害について一言。生身の人間が構成する社会は、正義という抽象的で無機質な言葉によって滅ぼされます。こころすべし、こころすべし。

実施行事報告

1. 1級土木技術検定「実地」試験 受験準備講習会

15年10月5日に実施される平成15年度1級土木施工管理技術検定試験（実地）の受験予定者のための「受験準備講習会」が15年9月4日～5日の2日間コースで会場を高知県教育会館「高知城ホール」で行われ、受講者103名は、記述式解答の実地試験に備え、設問に対して習得した知識や経験を実際に要領よく記述できるかどうか体験していただく、「解答演習」を交えた講義に真剣に取り組んでいました。



1級土木（実地）受験準備講習会

2. CPDS指定技術講習会開く

この講習会は、例年実施しています四国4県統一テーマによる、平成15年度土木施工管理技術講習会で、国土交通省四国地方整備局並びに高知県等の支援を得て、15年10月27日に開催されました。

本格的な「技術力の評価と活用」の時期を迎え、施工管理技術の一層の向上と研鑽が求められております。今回は、電子納品・防災・VE方式等についての習得を目的として、

- ① 高知県における取組みとしての「高知CALS/EC電子納品」について。

高知県土木部建設管理課 設計基準班 主幹 田内 克彦 氏

- ② 高い確率で予想される東南海・南海地震に係る対応としての「防災について」。

国土交通省四国地方整備局 企画課 課長補佐 大谷 忠夫 氏

- ③ 組織的・科学的な管理技法であるVEの建設現場での適応・対処・事例を解説し、技術提案力をマスターする「VEアプローチによる建設工事のコストダウン」について。

攻玉社工科短期大学環境建設学科 教授 大野 春雄 氏

以上をテーマにそれぞれ講演があり、時期を得た技術講習会が実施されました。



CPDS指定技術講習会

3. 中国・四国土木施工管理技士会連合会「ブロック協議会」「技術交流会」開催される技術交流会

出席者 来賓：国土交通省大臣官房技術調査課 課長補佐 田中 基裕
 国土交通省四国地方整備局 局長 南部 隆秋 ほか4名
 国土交通省中国地方整備局 企画部長 池田 道政 ほか1名
 四国4県土木部 香川県土木部 理事 近藤 貞則 ほか4名
 （高知県：土木部土木技術監 中嶋 俊夫〈建設管理課長〉）
 (社)香川県建設業協会 会長 森田 紘一
 (社)全国土木施工管理技士会連合会 専務理事 尾作 悦男

中国・四国土木技士会連合会 会長 佐々木 久(徳島県技士会) ほか30名

・技術交流会に先立ち、国土交通省大臣官房技術調査課 田中基裕課長補佐による「土木工事の実施に当たって」と題した記念講演を行った。

※(CD-Rあります。複製ご希望の方はお申し出下さい。)

・技術交流会における行政庁に対する要望事項、以下ご紹介します。

登録指定を国へ要望 ～監理技術者講習実施機関に!!

中国・四国土木施工管理技士会連合会のブロック協議会と技術交流会が15年11月11日、高松市の全日空ホテルクレメント高松で開かれ(写真)、中国・四国9県技士会の一致した意見として全国土木施工管理技士会連合会を監理技術者講習の実施機関として登録指定するよう国に強く働きかけるなど、土木施工管理技士の重視活用や社会的地位向上の実現に向けた7項目を、技術交流会の席で国土交通省など関係者に要望した。

監理技術者講習機関への登録要請は、公益法人改革実施計画を受けて16年3月1日から監理技術者に対する講習制度が改正されるのに伴い、監理技術者講習の実施主体として、全国土木施工管理技士会連合会の登録指定を求めるものであります。

要望項目は次の通り。

1. 監理技術者講習について……全国土木施工管理技士会連合会を監理技術者講習実施機関として指定し、監理技術者に全国均一な教育が行えるようにしていただきたい。
2. 改正監理技術者制度への円滑な移行について……政省令の年内の策定、手引書の作成。
3. 総合評価落札方式等の導入について……技術面での競争で技術者の活用をお願いしたい。
4. 総合評価落札方式の柔軟な運用について……最高20点加点を要望。
5. 努力する土木施工管理技士の評価・活用について……CPDSを経審の主観事項に、また上級資格への所要経験年数の短縮を願いたい。
6. CALS/ECについて……電子納品でペーパーとの二重管理等問題があり、より無駄の無い体制を願う。
7. CORINSへの技術者データベース構築を要望します。



中国・四国ブロック協議会技術交流会
(11月11日実施)

事務局だより

平成15年度

1級土木施工管理技術検定・学科試験 実施結果

去る7月6日、「平成15年度 1級土木施工管理技術検定・学科試験」が全国13地区41会場で行われ、このほど実施結果が発表されましたので、ご紹介いたします。

試験結果の全国合計を見ると、当日の出席者65,565人に対して合格者32,729人、合格率49.9%と、前年度の合格率54.9%に比べて5ポイント減少しました。合格率が5割を下回ったのは、平成12年度の48.4%以来3年ぶりのことです。高松会場においても、出席者3,018人に対して合格者1,541人(同51.1%)と、前年度の56.1%に比べ5ポイント減少しました。

また、出席者数の全国合計が13年度70,916人(うち高松会場3,145人)、14年度69,138人(同2,932人)、15年度65,565人(同3,018人)と、減少傾向が見られます。

〈平成15年度〉

1級土木施工管理技術検定・学科試験実施結果表

平成15年7月6日実施・平成15年8月20日発表

試験地	受験予定者数(人)	出席者数(人)	出席率(%)	合格者数(人)	合格率(%)
札幌	4,068	3,410	83.8	1,642	48.2
釧路	925	771	83.4	335	43.5
青森	1,711	1,455	85.0	619	42.5
仙台	5,844	4,939	84.5	2,604	52.7
東京	16,690	13,986	83.8	7,259	51.9
新潟	2,738	2,389	87.3	1,297	54.3
名古屋	9,048	7,765	85.8	3,981	51.3
大阪	13,050	11,089	85.0	5,390	48.6
広島	3,816	3,340	87.5	1,785	53.4
岡山	2,335	1,996	85.5	986	49.4
高松	3,445	3,018	87.6	1,541	51.1
福岡	10,734	9,075	84.5	4,404	48.5
沖縄	2,917	2,332	79.9	886	38.0
全国計	77,321	65,565	84.8	32,729	49.9

平成15年度

2級土木施工管理技術検定試験 実施結果

去る7月20日、「平成15年度 2級土木施工管理技術検定試験」(学科・実地)が全国12地区37会場で行われました。このほど、その実施結果が発表されましたのでご紹介いたします。

【平成15年度/2級土木施工管理技術検定試験 実施結果表】

【種別：土木】

平成15年7月20日実施
平成15年10月17日発表

試験地	学科試験			実地試験			学科のみ合格者数
	出席者数	合格者数	合格率(%)	出席者数	合格者数	合格率(%)	
高松	2,550	925	36.3	2,739	774	28.3	296
全国計	49,864	18,927	38.0	54,482	16,685	30.6	5,512

広報等連絡コーナー

第8回土木施工管理技術論文募集 - CPDS登録対象 -

(社)全国土木施工管理技士会連合会では、皆様より日頃実践されている土木施工管理についての論文を募集します。お寄せいただいた論文は全て論文集として印刷製本します。

優秀な論文に対しては、最優秀賞、優秀賞、技術論文賞を設け表彰を行うとともに、CPDS登録対象事業として、登録を希望される応募者には学習単位が付与されます。技士各位の奮ってのご応募をお待ちしています。

入賞論文については、別に受賞論文集に取りまとめ、施工管理の技術交流や向上に役立ててまいります。

募集要領

募集対象者

技士会会員（土木施工管理技士）個人またはグループ（発注者との共同記述でも可）

対象工事

工事規模の大小、工種の制限はありません。他の論文応募で受賞した作品は除きます。出来るだけ最近の経験等をお願い致します。

記述内容

建設工事の施工管理について、現場や職場での ①経験談 ②苦労話 ③主張したいこと ④困ったこと ⑤工夫したこと ⑥挑戦したこと ⑦改善したこと ⑧反省点 ⑨結果 ⑩効果 などの中から組合わせて記述してください。

昨年度入賞課題 歴代入賞者をHP（www2.familie.ne.jp/~jcm）に掲載しています。

- ・小口径推進工法におけるトラブル対策事例及び工事イメージアップの実践
- ・下水道工事開削工法における省力化VE
- ・公園工事における産廃利用のVE活動報告
- ・一人の現場人間の体験談
- ・高所法面岩盤掘削工法について
- ・生分解性プラスチックを利用したゴミ削減について
- ・下水道開削工事における土留矢板先行工法
- ・伐採木の再利用と緑化工法による自然復元への取組み

字 数 4,000字程度（5,000字以内厳守。写真・図表は計8点まで、1枚につき300字として換算）

締 切 平成16年2月20日

応 募 先 (社)高知県土木施工管理技士会事務局

「現場の失敗」寄稿のお願い

土木施工管理技士会では、『現場の失敗』をテーマに原稿募集いたします。お寄せいただいた原稿は(社)全国土木施工管理技士会連合会発行の会誌「JCMマンスリーレポート」に掲載後(株)山海堂より単行本として出版する予定です。

タイトル：現場の失敗「○○○○○○○○○○」

内 容：あなた自身の、又はあなたの身近で起こった失敗例で、ちょっとした気のゆるみが招いたものを始め、無理な工期、工事費が原因となるもの、発注者が設計変更を認めないなど、施工者、発注者、コンサルタントの認識がかみ合わずに、結果として失敗につながった施工例など、失敗した原因とその結末、対処方法について、なるべく図・写真を添付してお寄せください。

執筆者：すべて匿名とし、所属技士会名も掲載いたしません。

執筆者関係各位にご迷惑のかからぬよう、地名、固有名詞類も掲載いたしません。

字 数：800字～2,400字（図・写真がある場合は1枚300字で計算）

締 切：平成16年2月20日

宛 先：高知県土木施工管理技士会事務局まで

CPDS学習単位：3 UNIT（登録希望者は申請書を添付してください。）

技士各位の奮っての応募を期待します。

平成16年度 1、2級土木施工管理技士試験と講習会のご案内

～土木施工管理技士をめざして～

(財)全国建設研修センターが建設業法に基づいて実施します「検定試験」、また、(社)高知県土木施工管理技士会が行います「受験準備講習会」を次のとおり予定しています。

なお、申込み用紙(願書)の販売方法、講習会への受講申し込み方法については、決定次第会員各位の所属会社あてにご案内文書を発送いたします。

－ 実 施 予 定 －

◎ 検定試験

1級(学科)	申込受付	平成16年3月1日～3月15日(予定)
	試験日	〃 7月4日(日)(予定)
1級(実地)	申込受付	平成15年度学科試験合格者・学科試験免除者 平成16年3月1日(月)～3月15日(月) (予定)
		平成16年度学科試験合格者 平成16年8月20日(金)～9月3日(金) (予定)
	試験日	〃 10月3日(日)(予定)
	2級	申込受付 平成16年3月1日～3月15日(予定) 試験日 〃 7月18日(日)(予定) (学科・実地同一日)



◎ 受験準備講習会(「検定試験」受験に備える講習会)

1級(学科)	日程	平成16年5月18日～20日 〃 5月25日～27日	} (6日間)
	会場	高知市	
	受講料	会員：45,000円・一般：48,000円	
	再受講者割引	(H14～15年度当講習会参加者) 会員：35,000円・一般：38,000円	

「実力テスト」	日程	平成16年6月17日(1日間)
	会場	高知市
	受験料	受験講習会参加者：6,000円 テストのみ参加者：8,000円

1級(実地)	日程	平成16年8月31日～9月1日(2日間)
	会場	高知市
	受講料	会員：20,000円・一般：23,000円
	再受講者割引	(H15年度当講習会参加者) 会員：18,000円・一般：21,000円

2級	日程	平成16年6月1日～3日(3日間)
	会場	高知市
	受講料	会員：30,000円・一般：33,000円
	再受講者割引	(H14～15年度当講習会参加者) 会員：25,000円・一般：28,000円

